



未知のウィルスから自分の命・大切な人の命を守るために、一人ひとりが日々できることを徹底して行ってきた令和2年度がもうすぐ終わります。振り返ってみますと緊急事態宣言の発出により、今年度の一斉登園開始は6月1日からとなりました。その後も私たちは全ての人の『安全』を最優先に考え、このような状況下におけるより良い園生活を模索し、様々な工夫を凝らしながら出来る範囲内で子ども達と楽しい毎日を過ごしてまいりました。また、お子様の園生活を何とかお伝えしたいという思いで、動画配信等にも取り組んできたところです。初めてのことで不十分なところも多々ありましたが、保護者の皆様には私たちの趣旨をご理解いただき、温かく見守っていただきましたことを本当に有難く感謝しております。

この一年の経験を活かし、次年度はさらにお子様の生活する姿をご家庭にお届けできますよう、全職員で努力を続けてまいりたいと思っております。

今や当たり前の日常となった『マスク着用』『丁寧な手洗い』『換気』『密を避ける』等は、今後暫くは続くことが予想されますが、次年度もやるべきことを丁寧に実行しながら、子ども達とたくさん体を動かし笑顔で楽しい園生活を送りたいと思っております。来る令和3年度(2021年度)も保護者の皆様のご理解とご協力を重ねてお願い申し上げます。



思考力・想像力
集中力・忍耐力
空間認知能力
コミュニケーション力
等が育まれる『折り紙』



—伝え合い・学び合い—

卒園した年長組さんは、年中組の頃から“折り紙”にとっても興味を持ち、雨天時やホームクラス等で継続的に折り紙を楽しんでいました。そんな中、1月の伝承遊びでかかわった『こま』を折り紙で作ることが自然と伝播し、次々に折り紙の輪が広がっていきました。「最後まで諦めないことが大事だね。」等と言いながら、自分であれこれと考え何度も折り直し、できた時の嬉しそうな表情は今でもはっきりと私の脳裏に刻まれています。また、「作りたい。」と言って参加してくる友だちに対し、“ミニ先生”として自主的に教える姿があちらこちらで見られるようになり、まさに伝え合い・学び合いを実感したところです。さらに、その様子を傍で観ていた年中児や年少児も「やりたい！」と意欲を示しており、このような伝え合いや学び合いが、異年齢に広がっていることを嬉しく思っています。

—継続は力なり—

13日(土)に卒園した年長組のY君は、ある時期自宅のある池田から毎朝お母さんと手を繋ぎ、歩いて登園していました。距離が長く大変なこともあったと思いますが、日々続けることで車から命を守る方法を身に付けたり、道端に咲く草花に目を留める等、自然の変化に気付くことができたのではないのでしょうか。

スリッパを並べる、食事のお皿運びをする等、皆様のご家庭でもきっと続けていることがおありだと思います。継続することで得るものをそれぞれが感じとってほしいと思っております。

「編集後記」先日(13日)、年長組の子ども達が園を巣立っていきました。コロナ禍の中、卒園式もクラスを入れ替えての短縮バージョンとなりましたが、気持ちの良い返事・目と目を合わせる・頑張るときは頑張る等、卒園児は在園期間中培ったことを最後の登園日でも思い起こし式に臨んでいました。時間の都合上ゆっくりとお別れができませんでしたので、この状況が収束した際には、是非とも園に来ていただく機会を作りたいと考えています。

在園児の皆様は4月から新しい環境での生活となりますが、これまで同様一日一日を大切にやるべきことを丁寧にやっていきましょう。新しく入園されるお友達と共に皆様の笑顔が揃う日を心待ちにしています。【編集：子育て相談：北村】